

令和4年度 第2回秋田県地域職業能力開発促進協議会
議事概要

- 日時 令和5年3月16日（木） 13:30～15:00
- 場所 ルポールみずほ 3F「ふよう」
- 出席者 秋田県地域職業能力開発促進協議会委員
渡部会長、水澤委員（浅野代理）、土田委員、小野委員、藤井委員、
中西委員、明石委員、佐藤（徹）委員（高橋代理）、佐藤（進）委員
（櫻田代理）、景山委員、相庭委員、川口委員
オブザーバー
ハローワーク秋田
事務局
今野職業安定部長、赤坂訓練室長、佐藤訓練室長補佐

○議題

- 1 令和3・4年度公的職業訓練の実施状況について
- 2 情報関連技術やサービス（ICT）に関する事業所ニーズについて
- 3 ハローワークの職業相談窓口での訓練ニーズについて
- 4 令和5年度秋田県地域職業訓練実施計画について
- 5 ワーキンググループにおいて効果検証を行う訓練分野について

○議事概要

事務局からの資料説明（議題2については秋田県が説明）、ハローワーク秋田からの報告、資料等についての質疑応答の後、意見交換が行われた。意見交換等の概要は以下のとおりである。

<議題1 関連>

- ・鷹巣技術専門校においても他校と同様に4月開講が可能か関係機関との検討も必要。
- ・キャリア形成サポートセンターにおけるジョブ・カード作成実績の改善に向けた取り組みの強化が必要。

<議題2 関連>

- ・企業が求める「基礎的なスキル」のデジタルな部分に関するニーズ調査と併せて県内企業におけるデジタル人材の採用に関する機運を高めていくことも重要。
- ・企業においてデジタル人材の活用目的、方法が明確にされていないことが、デジタル分野訓練受講修了者の就職率の伸び悩みの一要因ではないか。
- ・企業におけるIT（デジタルスキル）の活用方法等のセミナーの開催を要望。
- ・IT、Web関連の県内誘致企業も含めた企業におけるデジタル系人材ニーズとデジタル分野の訓練内容を調整していくことが訓練修了者の就職率向上に不可欠。

<議題3 関連>

○ハローワーク秋田から概ね以下のとおり報告があった。

- ・職業訓練の受講を希望者する約7割前後の者が自ら希望コースを決めた状態で受講相談に訪れる。
- ・希望するコースではパソコン関係(パソコン操作含む事務系訓練)の人気のかなり高い。
- ・パソコン操作を基礎から学べる「パソコン初級科」は毎回定員を越える受講申込みがある。
- ・多くの求人に「パソコン操作必須」等の記載が見られることも人気に影響を及ぼしていると分析している。
- ・パソコン関係訓練は幅広い年代からの人気が高い。
- ・デジタル分野では「Web制作技術者養成科」の人气が高く、毎回定員以上の受講申込みがある。
- ・「Web制作技術者養成科」の修了生は訓練関連職種以外に就職するケースも多い。
- ・介護系訓練のニーズは依然として高い傾向にある。
- ・介護分野は人材不足分野であり求人数が多く、求職者が求職活動をとおして介護職を再就職先として視野に入れてくる。そこで訓練受講となるケースが多いと分析している。訓練修了者の職場定着率もそれなりに高い印象がある。
- ・企業側にとっては採用後の人材育成に係る経費の削減等、求職者にとっては仕事と訓練の両立ではなく一定期間集中して学習できるというメリットがあり、双方からのニーズが高い訓練であると分析している。
- ・デジタル分野訓練でも長期人材育成コースとなると求職者はハードルが高いとみる傾向があるせいか定員を超えるほどの受講希望はない状況である。

<議題4 関連>

- ・事務局から提案のあった実施計画案に対して、協議会での各委員からの意見等を踏まえた運営をしていくこととして、満場一致で承認。
- ・リスキリングの推進には事業主のみならず在職者、求職者の意識改革も重要であり環境整備していくことが必要。

<議題5 関連>

- ・事務局から提案のあったデジタル分野以外を希望する委員はおらず、検証対象分野は「デジタル分野」に決定。
- ・ワーキンググループでの十分な効果検証を要望。